

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171300132
法人名	有限会社 共生の里
事業所名	グループホーム 共生の里三日月道辺
所在地	小城市三日月町道辺880番地3 (電 話) 0952-73-5128

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 21年2月16日	評価確定日	平成 21年4月25日

【情報提供票より】(平成20年12月16日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 9 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 6.9 人	

(2)建物概要

建物構造	木造平屋造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15000~30000 円	その他の経費(月額)	7,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	210 円	昼食	270 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(平成21年2月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	5 名	女性	4 名	
要介護1		名	要介護2	6	名	
要介護3	3	名	要介護4		名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	80 歳	最低	58 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	ひらまつ病院 中多久病院 ウッディデンタルクリニック
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>広々とした田園地帯の一角にある、民家改修型のグループホームである。開設後5年を経て、入居者の状態も年を重ねるごとにADLの低下が見られ、個々の生活動線に応じた手すりの設置、画一化しない食事時間の設定など、一人ひとりのレベルに応じ柔軟に対応されている。日々の散歩の際の交流や地域の方からの野菜の差し入れ、介護の相談等を受けるなど、地域との関係も良好である。今春には、認知症の啓蒙活動として、市の公民館にて認知症に関する映画「折り梅」の上映会等も企画され、ホームの地域への還元にも努められている。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回指摘のあった運営推進会議の開催のあり方、入居者が重度化した場合の対応の指針など、継続的に改善に向けての話し合いがもたれ、できるところから順次取り組まれている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を日々の業務を見直す機会ととらえ、職員全員で取り組まれている。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>6ヶ月に1度、家族会代表、地区住民、民生委員、地域包括センター等からの出席のもと開催され、ホーム行事の報告や意見の収集に努められている。今後、2ヶ月に1度の開催を目指し、会議のすすめ方や内容等についても会議の中でアドバイスを受けながら、更なるサービスの質の向上につなげられることが望まれる。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関には意見箱を設置すると共に、窓口となる職員を明確にし、家族からの意見を受けやすいような雰囲気作りに努められている。また、意見・要望があった場合は、管理者を中心に全体で話し合い、運営に反映されている。毎月便りを出され、入居者個々の様子等は報告がなされているが、ホーム便りを活かし、ホーム全体の行事の報告や案内、職員の異動の際の紹介等も行っていくことが望まれる。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>日々の散歩の際の交流や川掃除への参加、地域の方からの野菜の差し入れ、介護の相談等を受けるなど、日々の生活の中での交流が図られている。また、今春には、認知症の啓蒙活動として、市の公民館にて映画の上映会等も企画されている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「昔ながらの生活そのままに、趣のあるたたずまいのまま、その人のその人らしい生活を、生き生き生きる」という事業所独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホームの目につきやすい所に掲示されている。管理者は朝礼等で日々職員に伝達し、理念の共有を図るとともに、その実現に向けて共に取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日々の散歩の際の交流や川掃除への参加、地域の方からの野菜の差し入れ、介護の相談等を受けるなど、日々の生活の中での交流が図られている。また、今春には、認知症の啓蒙活動として、市の公民館にて映画の上映会等も企画されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を日々の業務を見直す機会ととらえ、職員全員で取り組み、より良い環境づくりに努められている。外部評価で指摘を受けた点は、改善に向けて話し合い、できることから順次取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	6ヶ月に1度、家族会代表、地区住民、民生委員、地域包括センター等からの出席のもと開催され、ホーム行事の報告や意見の収集に努められている。	○	2ヶ月に1度の開催を目指し、会議のすすめ方や内容等についても会議の中でアドバイスを受けながら、更なるサービスの質の向上につなげられることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地区住民からの相談を包括支援センターへつないだり、随時連絡を取り合い情報を交換しながら、サービスの質の向上に努められている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月便りを出され、入居者個々の様子等については報告がなされ、必要に応じて電話での連絡も行われている。	○	ホーム便りを活かし、ホーム全体の行事の報告や案内、職員の異動の際の紹介等も行っていくことが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱を設置すると共に、窓口となる職員を明確にし、家族からの意見を受けやすいような雰囲気作りに努められている。また、意見・要望があった場合は、管理者を中心に全体で話し合い、運営に反映されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動・離職がある場合は、こまやかな対応を心掛け、こまめに声かけを行ったり、職員の配置を考慮するなどして、入居者が混乱、動揺しないよう配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内では随時学習会を行い、サービスの質の向上に努められている。外部への研修についても、随時紹介し、職員の配置に問題がなければ、希望に添って参加できるようにされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内のホーム同士や、地域の支援事業所や福祉施設とは交流が持たれ、ネットワーク作りに努められているが、グループホームとの交流はまだなされていない。	○	地域のグループホームとの交流を図り、相互訪問、相互研修の機会を設けるなどして、更に同業者間でのサービスの質の向上を目指されることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	必ず入居前に見学してもらい、本人、家族とも納得してからの利用となるよう努めている。事前の面会を重ね、情報を収集しゆっくり慣れていただけるよう関わりを密にするなど、対応に配慮されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と喜怒哀楽を共にし、日々の会話の中から、生活の知恵などを聞き取り、人生の先輩として向き合い支えあう関係作りに努められている。調理や園芸などの際には助言してもらおう等、いろいろな場面で入居者の知識が活かされている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話の中から希望や思いを把握するよう努められている。意思表示が困難な方は家族から情報を収集し、できるだけ本人本位となるよう検討されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の面会時に情報を収集し、入居者や家族の意向をふまえて職員全体で話し合い、入居者個々に応じた介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランの実施状況を実績表にまとめ、家族や入居者の意向を汲み取りながらサービス担当者会議が開催され、3か月ごとの見直しが実施されている。入居者の状態変化によっては、随時の見直しも実施されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	理美容や通院の支援、買い物等の付き添いなど、その都度必要に応じて柔軟に対応されている。入居者が希望されれば芝居の見学にも同行されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、家族の希望されるかかりつけ医のもと、適切な医療が受けられるよう支援されている。緊急時に昼夜を問わず対応してくれる、協力医との体制作りもできている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとしての指針はまだ作成されてはいないが、重度化した入居者の家族とは、かかりつけ医を交え繰り返し話し合いの場を持たれ、方針を決め全員で共有されている。	○	重度化に至る前から、ホームで出来ること出来ないことの指針を文章化し、同意を得ておくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳を大事にした言葉かけを行い、プライドを損ねることがないように配慮されている。個人情報や記録等についても、その取り扱いには十分に配慮され事務室にて保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活しやすい環境作りを第一に考え対応されている。個々の起床時刻にあわせた朝食時間の設定など、食事や入浴に関しても入居者の希望を優先されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえ、テーブル拭き、皿へのとりわけ、配膳と、入居者と職員と一緒に準備し食事を楽しみ、有効なコミュニケーションの場としても活用されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前、午後、夕食後と入居者の希望に応じて入浴できるよう支援されている。希望があれば、毎日の入浴にも対応されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴等を考慮し、野菜づくり、掃除、テーブル拭きといった、役割を担える場面を提供されている。また、ドライブ、散歩、テレビ鑑賞、買い物といった楽しみごとの支援もなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所への散歩やドライブ、近隣の健康センターでの足浴など、入居者が日常的に外出する機会を提供されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアの大切さは理解されているが、入居者の状態等を考慮した上で、安全・健康面を優先し玄関は日中は施錠されている。	○	安全・健康面の重視ということは理解できるが、鍵をかけないケアの大切さを今一度確認しあい、職員の配置等の取り組みで、施錠しないですむケアの提供についての検討が望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練、通報訓練が実施されている。消防署とはホットラインでつながり、地域の消防団や近所からも協力が得られるよう、日頃より働きかけが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	平日の昼食は給食センターを利用し、栄養のバランスも考慮されている。きざみ食やトロミ食など状態に応じて対応され、食事や水分の摂取量等についても把握されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気の中で不快な光や音もなく、日当たりのよい縁側やリビング等にはソファが置かれ、思い思いの場所でくつろげるよう配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋には使い慣れた家具や家庭用品が持ち込まれ、入居者一人ひとりの好みに合った居心地のよい部屋作りに努められている。		